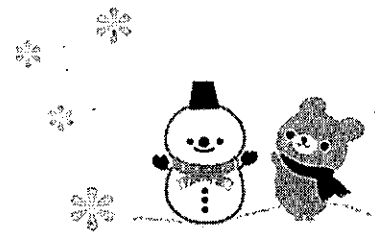


夢・努力・感動 ～生徒とともに～

令和2年12月21日(月)
1年生徒・保護者版
人権・同和教育部だより

みなさん、こんにちは。人権・同和教育部です。今年も残すところあとわずかとなりました。1年生の皆さんは文理選択が迫り、自分の進路と真剣に向き合っていることと思います。コロナウイルス感染症については引き続き警戒を要する状態なので、体調管理とともに感染防止にも十分気をつけてください。さて、今回の人権・同和教育部だよりは2学期に行われた人権・同和HR活動について振り返ってみたいと思います。



人権・同和HR活動

10月22日(木)「三つの感染症について」

○HR活動の内容(グループワークあり)

1. コロナウイルスについて知っていることをグループで話し合う。
2. 資料「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」を読んで、3つの感染症(病気、不安、差別)がどのようにつながっているか確認し、自分ができることを考える。
3. 3つの連鎖を断ち切るために、何ができるか話し合い、クラスで共有する。
4. 本日の振り返りを行う。

○生徒の皆さんの感想文より

- ・自分がコロナになったかもという時は絶対にPCR検査を受けたくないなと思ってたけれど、今回の授業を通して、少しでも疑いがあったり、心当たりがあったりしたら、自分から病院に行って検査をしたいと思いました。
- ・今日の授業でいろいろな人の意見を聞いて少し安心しました。みんなコロナに対して抱えている感情はほとんど同じで、みんなすごく不安だということが分かりました。だから、普段からコロナに対する発言や行動に気を付けて少し不安になることがあっても、自分が安心させてあげられるようになりたいなと思いました。
- ・最近SNSでの誹謗中傷が話題になっているので、自分が何かネットにのせる時は気をつけようと思いました。
- ・ネットなどで差別的なことを書くのは、会って言っているわけじゃないから、軽い気持ちでしてしまう人も多いのではないかなと思いました。だからこそ、みんなが言われる側の気持ちをちゃんと考えて、差別的な書き込みを見ても、それに流されないようにすることが大事だと思いました。
- ・差別については、自分がしないということしか書きませんでした。でも、他の人の意見や授業から、自分が直接しなくてももうわさに同調することが差別につながるということが分かったので、そうならないようにしたいと思いました。

○HR活動を終えて

今回は全国的に感染が拡大している「新型コロナウイルス」を題材にしました。まず、未知の病気が不安を煽り、不安から人を遠ざけ差別してしまい、差別を恐れて症状を隠して感染症が広がっていくという負の連鎖を確認しました。グループワークを通して、負の連鎖を断ち切る方法を主体的に考え、意見交換し、自分の考えや思いを深めることができたことが分かりました。

ふれあいコラム

○委員会活動の内容

ふれあい委員の活動の一環として、今回は1・2年生の1、3、5組のふれあい委員のみなさんから「あなたのクラスでのほっこりエピソード」と「気になっている人権問題」を募集し、以下のようにまとめてみました。

○ふれあい委員のみなさんの原稿より

〈ほっこりエピソード〉

- ・私のクラスでは、黒板消しや配り物を手伝う人が多いと思います。そういう小さいことにも気遣いができることはすごいことだと思うし、手伝ってもらった人も「ありがとう」と伝えることができていました。クラス全体でいい雰囲気がつくられていると感じました。
- ・ある日の授業中、スクリーンがついた瞬間そこに映し出されたのは、クラスの男子2人がとてもいい笑顔で写っている写真でした。普段は静かなクラスですが、このときはみな笑っていて、個人的にほっこりしました。
- ・球技大会での出来事です。試合が終わった後、応援してくれていた人たちが「おつかれ」といって向かえてくれました。言ってもらった人たちはきっとうれしい気持ちになるだろうし、とてもほっこりする言葉がけだなと思いました。応援の雰囲気も私たちのクラスらしくて、ほっこりした1日になったと思います。
- ・けがをして歩きにくそうにしているクラスメイトを移動教室や授業準備の際に手助けをしている姿を見てほっこりしました。

〈気になっている人権問題〉

- ・黒人差別は昔にあった問題であり、現在はないと思っていました。しかし、アメリカで起こった事件をニュースで見ると現在にも残っているのだなと思いました。法律などによって「人類は皆平等」であることが定義されていても、理解がすすんでいないからこういったことが現代にも社会問題として残っているのだなと考えました。
- ・この1年世界中で新型コロナウイルスが流行しました。現在、日本では第三波がきていて感染者が増え続けています。そこで問題となっているのが、感染者の方や医療従事者の方に対する差別です。感染したくてしたわけではないし、医療従事者の方は少しでも早く治そうと必死に仕事に当たっておられます。そんな人たちが差別を受けるといのは何かおかしいなと感じています。他人事として考えるのではなく、自分がその立場だったらと常に考えて行動するべきだと思います。この出来事が、今一度人権について真剣に考えるきっかけになりました。

最後に

今年の冬は厳しい寒さが予想されます。寒い時季だからこそ、温かい人間関係をつくることを意識して過ごしてみませんか? HRなどで人権について考えるとき、みなさんの心に浮かんだ温かい言葉をぜひ周りの人に伝えてみましょう。それが温かい人間関係への第一歩だと思います。

森山祐司(数学科) 今岡雅卓(国語科) 水師敏樹(地歴・公民科)